

< あなたの治療について >



消・外-nabPac-胃-triweekly

今回の治療は、nabPac 療法という治療法で、アブラキサン（ nabPac ）という注射薬で治療を行います。腫瘍の増殖を抑えるお薬です。

◎ 治療全体の流れ

今回の化学療法は3週間が1コースとなっています。各コースの1日目に点滴を行います。この治療を3週間（ 21 日間 ）ごとに繰り返します。副作用が強く出たり、体調がすぐれない場合は回復するまで、治療を延期したり、お薬の量を減らしたりすることがあります。

◎ 1コース分の治療スケジュール

順序	薬剤商品名 (薬の作用)	投与	1日目	2~21日目
①	デキサート (吐き気止め)	点滴 約30分		お休み
②	アブラキサン (抗がん剤)	点滴 約30分		

★ 点滴中や点滴後に、注射部位が痛い、赤くなつてはれる、水ぶくれができる、ただれるなどの症状に気づいたときは、すぐに申し出てください。また点滴中は、腕を動かすことにより針がずれ、点滴漏れが生ずることがありますので気をつけて下さい。

◎起こりやすい副作用について（頻度 20%以上）

アブラキサンについて

- 白血球減少、好中球減少、リンパ球減少、単球減少、貧血、赤血球減少、ヘマトクリット減少
- 末梢神経障害、筋肉痛、関節痛、運動障害 ●悪心、食欲不振 ●無力症 ●脱毛 ●発疹

◎特徴的な副作用について

アブラキサンにおける

●末梢神経障害

「手足のしびれ感、灼熱感、痛み：物がつかみづらい、歩行時につまづくことが多い」などの症状

* しびれがひどくなり、生活上の支障が出てきたときは必ず医師・看護師・薬剤師にご相談下さい。

●過敏症状

呼吸困難、胸痛、低血圧、頻脈、徐脈、潮紅、血管浮腫、発汗等

●刺激伝道障害

高血圧、低血圧、徐脈など

●関節痛・筋肉痛

症状は一般に、投与開始後2、3日後にあらわれ、また、早期のクール（1～3クール目）より発現する傾向にあります。

●発熱

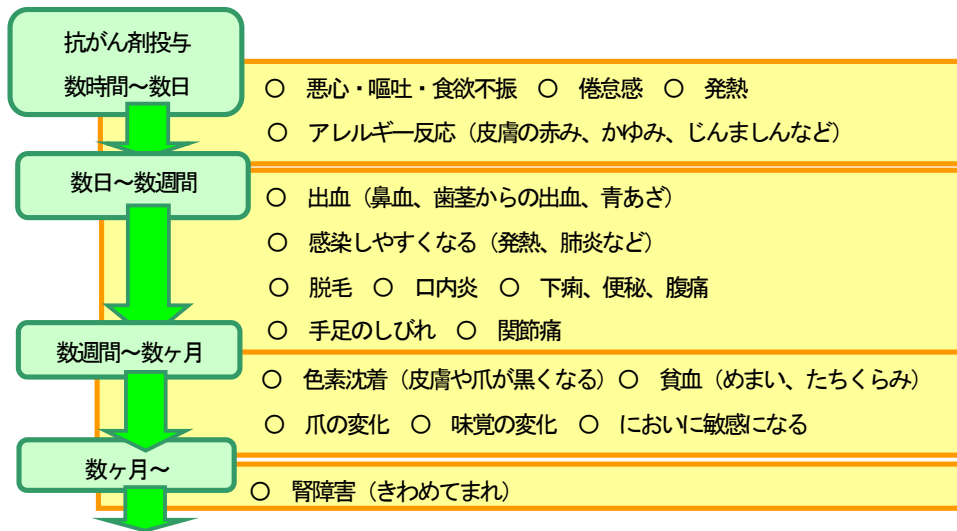
* 上記症状が現れたときは、必ず医師・看護師・薬剤師にご相談下さい。

◎副作用の発現時期の目安

*この図は、今回用いられている抗癌剤による副作用だけでなく、他の抗癌剤によって起こる副作用も含まれています。

これらの副作用がすべてあらわれるわけではありません。

また、発現する時期や程度も抗癌剤の種類や患者さんの体質により個人差があります。



◎副作用の対策について

★吐き気・嘔吐、下痢と便秘、口内炎、感染症、出血、貧血、脱毛などの副作用の対策について知りたい方は、資料をお渡しすることができますのでお申し出下さい。

◎薬品毎の副作用について（添付文書における重大な副作用を製薬会社作成「薬のしおり」などから抜粋）

まれな副作用ですが、この様な症状が現れた際には医師・薬剤師・看護師へご相談下さい。

【アブラキサン】

- 〈白血球減少等の骨髄抑制〉 熱がある、さむけがする、出血しやすい、血が止まりにくい、貧血
- 〈末梢神経障害〉 手足の痺れ、服のボタンかけができない、手先の細かい作業に支障
- 〈脳神経麻痺〉 目を閉じることができない、額のしわを寄せることができない、飲み込みにくい、しわがれ声
- 〈ショック、アナフィラキシー様症状〉 急に息苦しくなる、胸が痛い、血圧低下、脈が速くなるあるいは遅くなる、顔などがはてる、むくみ、発汗
- 〈間質性肺炎、肺線維症〉 から咳が続く、息苦しい、発熱
- 〈急性呼吸窮迫症候群〉 急に息苦しくなる
- 〈心筋梗塞、うっ血性心不全、心伝導障害〉 動悸、息切れ、胸痛、息苦しい
- 〈脳卒中、肺塞栓、肺水腫、血栓性静脈炎〉 頭痛、めまい、吐き気、息苦しい、胸が痛い、局所の血管の痛み・腫れ
- 〈難聴、耳鳴〉 聞こえにくい、耳鳴りがする
- 〈消化管壊死、消化管穿孔、消化管出血、消化管潰瘍〉 激しい腹痛、下血
- 〈重篤な腸炎〉 下痢、激しい腹痛
- 〈腸管閉塞、腸管麻痺〉 悪心・嘔吐、著しい便秘、腹痛、腹部膨満
- 〈肝機能障害、黄疸〉 白目や皮膚が黄色くなる、体がだるい、食欲不振
- 〈瘰癧〉 上腹部の激痛
- 〈急性腎不全〉 尿が出なくなる、血尿が出る、むくみ
- 〈皮膚粘膜眼症候群、中毒性表皮壊死症〉 手足に輪状の紅斑、発熱、まぶたや眼の充血、唇や口内のただれ
- 〈播種性血管内凝固症候群〉 出血しやすい、血が止まりにくい

◎ 上記のほかにも副作用が現れることがあります。

他にもからだの異常を感じたら、主治医や薬剤師、看護師に相談してください。